

美山町の知見集落を流れる知見谷川の支流を西に進むと地形図の道路端に標高 343m の表記がある。その 343m から南西に細い林道が谷沿いに伸びている。本日はその小さな谷の左岸の尾根に取り付き、反時計回りに尾根伝いで谷の右岸の尾根迄ぐるりと一筆書きコースを歩こうという計画である。幸い今日は読図能力優秀な S 女史の同行なので心強い。

この集落の民家が切れる辺りの橋で道路は鎖で封鎖されているので、橋の袂の草地に許可を得て車を停める。

民家の傍らにある墓地の脇を登り、尾根に取り付くと、障害もなく歩きやすい自然林の尾根が続いている。林床のイワカガミの葉は更新し新緑に輝いている。標高 400m 辺りでブナが現れる。

尾根は相変わらず歩きやすく楽ちん散歩道だ。サワフタギやヤマボウシの花盛り。

標高 531m で尾根の方向が変わると、右下に動物たちの楽園広場がある。テント泊には最高の場所。尾根は益々楽しい散歩道が続き広大な台地状の尾根になるとミズナラなどの美林の広がる楽天地。思わず笑いが込み上げて、「二人ではもったいないほど良い所ですね」と声に出して喜んでいる。

広大な尾根が緩やかに方向を変え南に向かい暫く登ると前方に送電鉄塔が見えてくる。660 峰である。相変わらずサワフタギの花盛り。ここで尾根はほぼ水平に西に向かっていている。穏やかな膨らみを越えやや登りになると本日の最高峰 727m に到着。この台地も自然林に囲まれ展望は無いが気持ちの良い広場である。

ここからの縦走路は注意がいる。727m からの出発時、何か違和感を感じて踏みとどまった。地形図を再度検め振出の山頂へ。よく見ると三ヶ谷山へと続く尾根は山頂の東横に V 字に食い込む谷があり、その谷を東から挟む尾根から縦走路は始まっている。尾根への取り付きはピークから少し北東に戻る必要があった。

南東方向に下ると広い大地に出るが、台地から続く痩せ尾根の見極めも重要。方向が定まると再び散歩道の開始。広い稜線の地形を確かめながら歩く。低木のサワフタギの

花盛りである。緩やかに登ると三ヶ谷山に到着。本日のコース唯一の三等三角点がある。

ここも自然林に囲まれ展望は無いが穏やかで落ち着ける台地である。コシアブラやウリハダカエデ、サワフタギ、アカマツの大木に囲まれ静かである。



昼食後、北東に進路を取り下山路に向かう。少し下り横向きの広い尾根に取り付き下山尾根を探す。穏やかなピークを越えて次の小ピークから北東に向かう細い尾根に下る。ここから複雑に尾根が変化するので慎重な読図が必要になる。一つでも間違うと谷に下るので集中力が

いる。同じ場所に立ち二人同時に読図を行い、意見が一致すると進む事を繰り返して無事に目標地点に降り立った。集落で、コアジサイの花の祝福を受けた。幸せな気持ちに満ち溢れる素晴らしい自然林の山である。

下山後、朝の出発時にお会いした近くの民家の小父さんが話しかけきた。小父さんの若いころは、全山胸丈ほどの笹に覆われていて山中を歩くのは非常に困難だったという。尾根筋を思う方向に自由気ままに歩ける、獣害で山肌が丸裸の近年の現状が良いのか悪いのか複雑な気持ちである。

★メンバー 佐々木・三鍋

★コース 登山口 9:15 発～531m9:50 発 52～660m第一鉄塔 10:22 発 29～727m10:43 発 11:07～610m第二鉄塔 11:25～三ヶ谷山 11:57 発 12:25～610mピーク下降点 12:45～610m12:55～林道 13:35～登山口 13:45